

## 第2章 ～平安時代(「原始・古代の日本と世界」)

## 凜明館

17	魏の歴史を記した(魏志(ぎし))の(倭人伝(わじんてん))は、(邪馬台国(やまたいこく))の女王(卑弥呼(ひみこ))が、30余りの小国を従え、(239)年に、中国の(魏)に使いを送り、交わりを結んだと伝えている。☆ <b>文来(239)るよ、邪馬台国の卑弥呼より</b>
18	3世紀後半になると近畿から瀬戸内海にかけて豪族の墓である(古墳(こふん))が作られるようになった。この周りや頂上には、円筒型や人物、家屋、馬などをかたどった(埴輪(はにわ))が置かれた。古墳が作られた時代を(古墳時代)と呼ぶ。
19	(奈良)県を中心とする地域に(大王(おおきみ))を中心とする強力な(大和(やまと)政権)が生まれ、(前方後円墳(ぜんぽうこうえんふん))と呼ばれる大きな古墳が作られるようになった。
20	5世紀ごろから、大王は中国に使いを送り、地位を保とうとした。また、朝鮮半島から日本に移り住む人々が増えてきた。これらの人々を(渡来人(とらいじん))とよび、この人たちが鉄製の農具やかたい質の土器である(須恵器(すえき))などを日本に伝えた。
21	渡来人は(漢字)とともに(儒教)の書物も伝えた。また、6世紀中ごろ、渡来人は百済から日本に(仏教)を伝えた。
22	中国では6世紀の末に、(隋(ずい))が強大な帝国をつくりあげた。(律令(りつりょう))という法律を整えた。やがて、7世紀のはじめには(唐(とう))と言う国が中国を統一し皇帝を頂点とする中央集権の仕組みを整えた。
23	アラビア半島で(610)年に(ムハンマド)が人間は神の恵みに感謝し互いに助け合わなければならないという(イスラム教)をおこした。 ☆ <b>ムハンマド、豚肉を食べさせられてムツ(610)する</b>
24	6世紀末に、日本では女帝の(推古(すいこ))天皇が即位すると、(593)年においの(聖徳太子)が(摂政(せつしょう))となり、(蘇我馬子(そがのうまこ))と協力して政治制度を整えようとした。☆ <b>聖徳太子さん摂政政治ご苦労さん(593)</b>
25	聖徳太子は、才能がある人を役人に取り立てる(冠位十二階(かんいじゅうかい))の制度や役人の心得を示した(十七条の憲法(けんぽう))を定めた。また、中国の制度や文化を取り入れるために(小野妹子(おののいもこ))らを(607)年に(遣隋使(けんずいし))として派遣した。☆ <b>群れな(607)し渡る遣隋使</b>
26	6世紀の半ばに日本に仏教が伝えられ、(聖徳太子)や(蘇我(そが))氏は仏教を奨励した。このころの文化を(飛鳥(あすか)文化)という。(法隆寺(ほうりゅうじ))の建築やその中にある(釈迦三尊像(しゃかさんそんぞう))などの仏像がその代表である。
27	7世紀の中ごろ、日本では(蘇我)氏の独裁的な政治に対する不満が高まり、(中大兄皇子(なかのおおえのおうじ))と(中臣鎌足(なかとみのかまたり))は(645)年に(蘇我)氏をたおし、政治改革を行った。この改革を(大化の改新(たいかのかいしん))という。☆ <b>蘇我の親子を蒸し殺し(645)</b>
28	7世紀の後半に朝鮮半島では、(新羅)が唐と結んで、(百済)や(高句麗)をほろぼした。日本は(百済)を助けるために大軍を送ったが、戦いに敗れ、朝鮮半島から手を引くことになった。この戦いを(白村江(はくすきのえ))の戦いという。
29	中大兄皇子は全国の(戸籍(こせき))をつくるなどして、改新の政治を進め、やがて即位して(天智(てんじ)天皇)となった。(天智天皇)の死後、あとつぎをめぐる戦い(壬申の乱(じんしんのらん))に勝って即位した(天武(てんむ))天皇は、天皇の地位を高め、新しい政治のしくみをつくりあげていった。
30	(701)年に唐の法律にならって(大宝律令(たいほうりつりょう))が作られ、全国を支配するしくみが定められた。このような国家を(律令(りつりょう)国家)という。 ☆ <b>大宝の律令政治に慣れはじめ(701)</b>
31	政治は、中央の一般の政治は(太政官(たいじょうかん))、地方の国では(国司(こくし))、(郡司(ぐんじ))が政治を行った。また、九州には(太宰府(だざいふ))がおかれ、外交や防衛にあたった。
32	(710)年に唐の長安にならって、奈良に(平城京)が作られた。奈良に都があった70年間を(奈良)時代という。☆ <b>なんと(710)大きな平城京</b>
33	奈良時代には中国の文化を吸収するために何度も(遣唐使(けんとうし))が送られた。遭難の危険が高く、(鑑真(がんじん))のように何度も遭難しながらも日本にわたり仏教を伝えた僧もいた。これにより、中国やシルクロードを通して伝わった西アジアの影響を強く受けた文化が生まれた。この文化を(天平(てんぴょう)文化)とよぶ。
34	8世紀の中頃、(聖武(しょうむ))天皇は、仏教の力で国家を守ろうとし、国ごとに(国分寺)と(国分尼寺(こくぶんにじ))を、都には大きな仏像である(大仏)をまつ(東大寺(とうだいじ))を建てた。
35	奈良時代には、神話や伝承・記録などをもとにまとめた(古事記(こじき))と(日本書紀(にほんしょき))が、地方の国の自然・産物・伝説などを記した(風土記(ふどき))が作られ、奈良時代の末には和歌集の(万葉集(まんようしゅう))がまとめられた。
36	奈良時代の戸籍では、人々は(良民(りょうみん))と低い身分の(賤民(せんみん))に分けて登録された。戸籍に登録された(6)歳以上のすべての人に(口分田(くぶんてん))が与えられ、その人が死ぬと国に返すことになっていた。これを(班田収授の法(はんてんしゅうじゆのほう))という。
37	奈良時代には、人々は口分田の面積に応じて(租(そ))を負担した。また成人男性には絹などの特産物を納める(調(ちょう))、労役の代わりに布を納める(庸(よう))の税が課せられた。また、兵役の義務も課せられ、兵士の中には(防人(さきもり))として九州北部に派遣される人もいた。
38	(743)年に、口分田が不足したため、朝廷は人々に開墾を勧め、開墾したものが永久に所有することを認めた。これを(墾田(こんてん)永年私財法)という。しかし、実際に開墾できたのは貴族、寺院、豪族など力を持っていた人だけであった。☆ <b>口分田、無し身(743)に墾田永年私財法</b>
39	奈良時代の中ごろから、政治が混乱し始め、(794)年、(桓武(かんむ))天皇が政治を立て直すために、都を今の(京都)に移した。この都を(平安京)といい、その後400年間を(平安時代)という。☆ <b>うぐいす鳴くよ(794)平安京</b>